

水田を活用した冬キャベツの品種比較試験

要約

収穫期の延長による収益性向上のため、12月以降の収穫に適した品種の選定を行った結果、7月播種、8月定植、12月からの収穫に向いている品種は夢舞妓、綾音であると考えられた。特に、夢舞妓の厳寒期における在圃性が高いことから、1月、2月の収穫のためには12月までに収穫可能な生育量の確保が重要であることがわかった。

○ 展示のねらい

那須管内におけるキャベツの出荷は6～12月であり、収穫期の延長による収益性の向上が求められている。そこで、12月～2月に収穫する作型におけるキャベツの品種比較試験を行う。

○ 主な成果

	YR 楽山 (収穫開始 11/12)	味春 (収穫開始 11/15)	夢舞妓 (収穫開始 12/12)	綾音 (収穫開始 12/12)
11/14				
11/14	 換算収量 2.5t/10a	 換算収量 3.1t/10a	 換算収量 2.3t/10a	 換算収量 1.8t/10a
12/13	(収穫終了)	(収穫終了)	 換算収量 4.5t/10a	 換算収量 3.3t/10a

※換算収量＝結球重×4,000株/10a×正常株率

- ・育苗時から定植後の生育初期は高温の影響が大きく、は種20日後の立ち株率はYR 楽山16%、味春27%、夢舞妓38%、綾音79%であり、生育初期の正常株率はYR 楽山、味春55%、夢舞妓95%、綾音70%であった。
- ・12月の換算収量は、夢舞妓4.5t/10a、綾音3.3t/10aであった。夢舞妓は1月、2月とも12月と生育の差がなかった。厳寒期における品質の低下も見られなかったことから在圃性が高いことが確認できた。

○ 今後の方向性

育苗時の高温抑制対策と定植後の活着促進を徹底し、欠株率を低くする。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部

実施場所：那須塩原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315